

基準 9. 教育研究環境

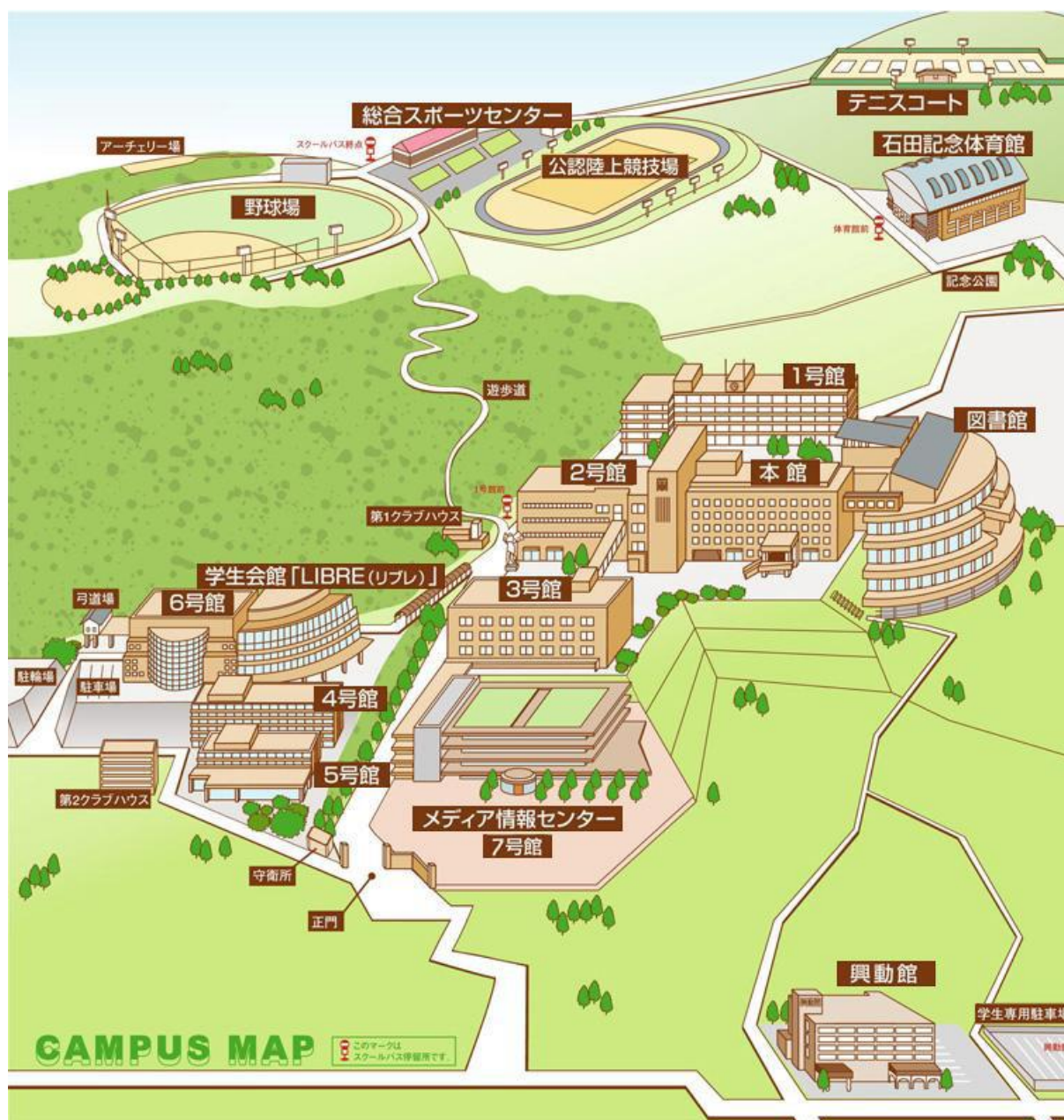
9-1. 教育研究目的を達成するために必要なキャンパス（校地、運動場、校舎等の施設設備）が整備され、適切に維持、運営されていること。

(1) 事実の説明（現状）

9-1-1 校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設等、教育研究活動の目的を達成するための施設設備が適切に整備され、かつ有効に活用されているか。

本学は、図 9-1-1 および表 9-1-1 のような教育研究環境を有している。

図 9-1-1 広島経済大学キャンパス配置概要



徒歩で約 19 分 1.5km

車で約 50 分 35 k m

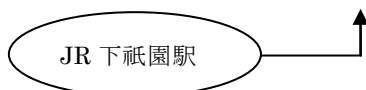


表 9-1-1 広島経済大学の主要施設概要

名 称	面積(m ²)	主要施設
本 館	4,947	理事長室、専務理事室、学長室、副学長室、学部長室、事務室、会議室、教員研究室、地域経済研究所、演習室、保健室、学生相談室、学生自習室
1 号館	5,879	講義室、演習室、事務室、食堂
2 号館	3,924	講義室、演習室、語学教室、事務室
3 号館	3,437	事務室、教員研究室
4 号館	1,131	大学院研究科長室、演習室、大学院生共同研究室、大学院生図書室、会議室
5 号館	936	食堂
6 号館・学生会館	7,625	講義室、売店、学生ラウンジ、理美容店、本屋、娯楽室、学友会事務局、同窓会事務局、食堂
図書館	8,685	図書閲覧室、マイクロ閲覧室、知の系譜文庫、自習室、ビデオ視聴室、電動集密書庫、書庫、大会議室、研修室、館長室、事務室
メディア情報センター (7 号館)	7,513	講義室、演習室、情報実習室、パソコン教室、映像スタジオ、ラジオブース、編集室、事務室、教員研究室、フリースペース
興動館	3,252	演習室、会議室、事務室、教員研究室、レストラン、プロジェクトスペース、シャワー室
石田記念体育館	9,907	メインアリーナ、武道場、トレーニングルーム、シャワー室、会議室、館長室、事務室
第 1 クラブハウス	602	会議室、音楽室、文化系部室
第 2 クラブハウス	356	体育系・文化系部室
総合スポーツセンター (第 3 クラブハウス)	1,265	会議室、体育系部室、ロッカー室、倉庫、事務室
テニスコート (第 4 クラブハウス)	87	会議室、ロッカー室、倉庫
体育倉庫	105	
守衛室	26	守衛室、仮眠室
研修センター	2,408	宿泊室、研修室、浴室、事務室、食堂
合 計	62,085	

〈校地・校舎〉

校地・校舎については、表 9-1-2 のとおりの面積を有している。

表 9-1-2 大学設置基準との校地・校舎の比較

名 称	面積(m ²)	設置基準上必要面積(m ²)
校 地	244,469	34,000
校 舎	62,085	13,551

本学の校地と校舎の面積は、表 9-1-2 に示したように、大学設置基準上必要な面積を

上回っている。

〈教室〉

本学の教室は、教育目的に繋がる「人間力向上」「基礎知識の向上」「プレゼンテーション能力の向上」という観点から、施設設備（マルチメディア装置）は適切に整備されている。これにより、各教員の授業方法の選択肢が増え、受講生の授業満足度が向上している。

また、少人数教育をさらに拡充させるため、演習教室を 43 教室に増設し、「入門ゼミ I・II」「演習 I・II」などの必修化に応じている。加えて、語学専用教室（5 教室）の机とイスを可動式に変更することによって、ディスカッションやグループワーキングに対応できるようにし、設備面からも、語学教育充実へ力を注いでいる。

7 号館（メディア情報センター棟）のパソコン教室は、20 教室中 16 教室にパソコンと連動したプロジェクター装置を備えており、授業での多様なプレゼンテーションを可能にする環境が整っている。

〈図書館〉

現在の広島経済大学図書館は、本学における教育研究活動の拠点として、最新の設備を整備した図書館として建築され、平成 12(2000)年 4 月に開館した。本学図書館の概要は、表 9-1-3 のとおりである。

表 9-1-3 図書館の概要

建 物	地上 4 階地下 2 階建
延べ床面積	8,685 m ²
収容可能冊数	470,000 冊
施 設	グループ学習室 6 室（68 席）、研究個室 10 室、閲覧座席数 441 席、新聞閲覧席 36 席、パソコンコーナー 22 席、LL ルーム 6 席
設 備	視聴覚ブース 32 席、OPAC 端末 20 台、情報検索端末 6 台、インターネット端末 20 台、自習用パソコン 5 台
蔵 書 冊 数	401,063 冊（2008 年 5 月 1 日現在）
所蔵雑誌種類数	4,434 種（2008 年 5 月 1 日現在）

図書館は、上記のように、教育と研究を支えるために充実した設備と、豊富な資料を備えている。本学は経済専門の大学であるため、特に経済・経営関係の図書資料が充実している。また、本学では、印刷技術の発明によって人類の進歩に貢献した名著を収集し、「知の系譜」文庫と名づけられた稀観書コレクションを収蔵しており、内外の研究者が訪れている。特に平成 12(2000)年に刊行した図録『知の系譜—広島経済大学図書館所蔵稀観書目録—』は、私立大学図書館協会の 2000 年度協会賞を受賞している。

図書館は、図書資料の収集・整理・提供という図書館本来の機能を充実させるとともに、それを生かすために、図書館利用者へのサービス、利用者教育、図書館協力を行っている。

図書館利用者へのサービスについては、主に学生を対象とした貸出・閲覧、文献複写などを行っている。利用者教育については、本学の授業科目「入門ゼミ I」において、図書

館ガイダンスを実施し、入学時の早期において、図書館を身近に感じ、図書館の活用術を知ってもらう努力をしている。また、授業科目「演習Ⅰ」において、専門性の高い文献ガイダンスを実施し、レポートや論文作成等に役立つ情報を提供している。

図書館間の相互協力については、国立情報学研究所の NACSIS-ILL により、他大学図書館との間で積極的に行っている。

本学の蔵書検索システム(KEINS)により、本学が所蔵する図書・雑誌（書誌データベース）を検索するサービスを提供している。また、本学で利用できる新聞記事データベースとして、朝日新聞社「聞蔵Ⅱ」と日本経済新聞社「日経テレコン 21」がある。雑誌記事のデータベースとして、「日経 BP 記事検索サービス」、電子ジャーナルとして「Business Source Elite」などがある。レポートや卒業論文の作成に際して、多くの学生がこれらを利用している。

図書館の開館日数（平成 19(2007)年度）は 263 日、図書館の開館時間は 8 時 30 分から 21 時まで（土曜日は 9 時から 17 時まで）である。年間の入館者数は延べ 14 万 9,276 人となっている。なお、図書館は、学外者でも、登録することにより利用することができる。その数は、平成 20(2008)年 5 月 1 日現在で 2,634 人である。

〈体育施設と運動場〉

石田記念体育館は、体育施設として利用されている。その 1 階には、500 畳の広さを有する武道場や、多目的室がある。2 階にはトレーニングルームや選手控え室がある。3 階のメインアリーナは、バスケットボールコートが同時に 4 面とれる広さがあり、4 階は、観覧席、ランニングコースとなっている。

運動場として、野球場、テニスコート、陸上競技場、サッカー場がある。陸上競技場は、全天候、アンツーカー、天然芝の三重構造トラックを備えたトレーニング型陸上競技場である。また、サッカー場は人工芝を敷設している。なお、運動場は、ナイター照明設備を備えている。

体育施設や運動場については、授業あるいはクラブ活動で使用されていない場合、施設を地域住民へ開放している。

〈情報サービス施設〉

本学には、表 9-1-4 に示すとおり、メディア情報センターをはじめ、各所に合計 919 台のパソコンが配備されており、学生に対する情報環境基盤が整えられている。これらのパソコンには、授業に対応したさまざまなソフトがインストールされており、全て学内 LAN を介してインターネットにつながっている。その他に、広島経済大学ポータルサイトの「HUE NAVI」（ヒューナビ）で Web により、お知らせ情報、Web 履修登録、シラバス情報、就職活動支援、図書館蔵書検索、図書館 My ページ、e ラーニングなどのサービスを提供している。これらの情報施設の管理運営は、メディア情報センターの 7 人の職員が行っている。

メディア情報センター（7 号館）の 4 階には、フリースペースが設置されている。そこに、学生が自由に利用できる約 100 台のパソコンが配置されている。フリースペースは、平日は 8 時 30 分から 21 時まで、土曜日は 9 時から 17 時まで開放している。さらに、20

あるパソコン教室も、授業の空き時間に利用できるようになっている。

実習や演習で使用するスタジオやラジオブースは、設備機器（ハイビジョン対応のスタジオテレビカメラ、ハンディーカメラ、ノンリニア編集機器、リニア編集器、アナウンスブースを備えた編集装置等）が整備され、有効に活用されている。

表 9-1-4 パソコンの設置場所・台数・利用形態

設 置 場 所	台 数	利 用 形 態
メディア情報センター " パソコン教室 " フリースペース	692 100	授業で使用 開放パソコン
キャリアセンター	20	就職活動で使用
国際交流室	4	留学生が使用
インターンシップ推進室	4	インターンシップ活動で使用
図書館 " パソコンコーナー " 貸し出し用ノートパソコン	20 30	開放パソコン 開放パソコン
興動館 " パソコンコーナー " マルチメディア室 " 貸し出し用ノートパソコン " info	20 4 10 4	プロジェクト活動で使用 プロジェクト活動で活用 開放パソコン（無線 LAN） プロジェクト活動で使用
大学院	8	大学院生が研究のため使用
地域経済研究所	1	資料検索で使用
教育・学習支援センター	2	学習支援で使用
計	919	

〈興動館〉

興動館は、学生の「人間力」を育成するための「興動館教育プログラム」を遂行するための拠点として、平成 17(2005)年 7 月 8 日に開館した。大学の約 600m 東に位置する興動館は、スクールバス（1 号館前～興動館）の運行により、利用しやすい施設になっている。（スクールバスは、講義日 35 往復運行されている。興動館の位置については、図 9-1-1 を参照。）

興動館の 1 階（805 m²）には、事務室、ロビー、会議室、レストラン、2 階（815 m²）には、プロジェクトスペース、マルチメディア室がある。3 階（815 m²）には 8 つのゼミ室、4 階（815 m²）には 5 つの研修室とシャワー室がある。必要に応じて、パソコン、デジタルカメラ、ボイスレコーダーなどの機器も貸与している。また、館内では無線 LAN によってインターネットを利用することができる。

興動館は、「興動館科目」のゼミ室として利用する場合と、「興動館プロジェクト」の活動場所として利用する場合とがある。「興動館科目」は、平成 20(2008)年度の場合、全部で 31 科目 39 クラスが設置され、1,152 人の学生が受講している。「興動館プロジェクト」は、現在 20 のプロジェクトが活動中であり、約 350 人の学生がプロジェクトに参加し、活動を行なっている。

興動館の開館時間は、10 時から 21 時まで（平日）であり、土曜日・日曜日・祝祭日は、

原則として休館である。ただし、施設利用の申し込みにより、24時間施設を使用することができる。さらに、活動時間を延長したい場合には、申し込みにより、宿泊することも可能である。ちなみに平成18(2006)年度の宿泊者数は延べ886人であった。

興動館は、地域にも開放されている。すなわち、興動館に申し込みをすることにより、同施設を使用することができる。平成18(2006)年度の一般利用者数は、3,829人であった。

このように、興動館の利用率は非常に高い水準にあり、今後ますますの利用増が見込まれている。

〈その他の施設〉

学生食堂は、1号館、学生会館、5号館の3箇所があり、その総席数は855となっている。その他に、興動館のカフェに60席がある。

1号館の食堂については、平成19(2007)年度に、リニューアル改修工事を行い、混雑を解消し、また、清潔感・開放感のある空間を設けた。

本学には、学生駐車場と二輪車駐輪場がある(図9-1-1を参照)。学生駐車場には450台を、二輪車駐輪場には1,180台を、それぞれ収容することができる。

9-1-② 教育研究活動の目的を達成するための施設設備等が、適切に維持、運営されているか。

本学の施設設備の維持・管理は、総務部管財課により、教員および各部署から寄せられる施設設備の改修や改善の要望に基づいて行われている。また、日常的な施設設備の修繕等についても、各部署からの申請に基づいて行われている。

施設設備の保守点検業務は、外部に委託しており、各教室の清掃、ゴミの収集、エレベーター保守、グラウンド整備、電気設備保守、空調設備、防火災点検、電話設備保守、高架水槽の清掃・点検等の契約を結んでいる。

(2) 9-1の自己評価

校地・校舎については、大学設置基準を上回る面積を有しており、適正である。

校舎および教室等における施設設備については、多様な授業を円滑に行えるように、各種の設備が整備され、その設備の機能の維持が図られている。施設設備は、質および量の両面において、教育課程の遂行に十分なものであり、適切にその充実が図られている。

学生の要望に基づいて、学生専用駐車場を整備し、陸上競技場内に人工芝を敷設した。今後、情報教育や学習支援サービスに関連する新たな設備が必要になることが予想される。また、課外活動の活発化に伴い、クラブハウスの部室の数と、その大きさが課題になりつつある。

図書館は、充実した設備と豊富な資料を備え、平日の夜間および土曜日にも開館することによって、学生と教員が求める快適な教育研究の環境づくりに貢献している。また、図書館を一般公開しており、学外者にも貸出サービスを行っている。「知の系譜」文庫には、調査研究目的の研究者が来館しており、学外者の研究活動にも貢献している。

図書館は、前年度に「図書館利用アンケート」を実施している。それによると、開館時間、貸出冊数、職員の対応等については、高い満足度が得られているが、図書資料の整備

については工夫が必要であるとの結果がでていいる。

メディア情報センター（7号館）は、約100台のパソコンが設置されているフリースペースを平日の夜間および土曜日も開放し、また、スタジオやラジオブース、およびその設備機器を通して、学生と教員が必要とする教育研究の環境を整えることに寄与している。

メディア情報センターは、年2回、利用学生に対してアンケート調査を行っている。その結果によると、70%が「利用しやすい」と答え、情報センターの職員の学生への対応については77%が「親切、迅速に対応してくれた」と答えた。そして、これまでパソコンが満足に利用できないとの苦情は聞いていない。これらのことから、情報サービス施設は十分設置され、良好に運営されていると判断している。

興動館は学生の「人間力」を育成するための施設として運用しているが、施設、設備ともにその目標を遂行するために整備している。興動館プロジェクトに関しては、4階宿泊施設を含めて24時間体制で学生の利用が可能となっている点や、2階に設置されたプロジェクトスペースなど、活動の拠点として大きな機能を果たしている。とくに、2階プロジェクトスペースは、壁による部屋の仕切りがないため、プロジェクトの枠を超えて活動する学生同士の交流が生まれ、互いに刺激を与え合う空間となっている。また、興動館科目の拠点である3階ゼミ室では、机・椅子の配置をフレキシブルに移動することが可能で、多様な授業形態をもつ興動館科目実施に大きく寄与している。また、無線LANをはじめ、興動館プロジェクト活動や興動館科目の実施に必要なインターネット環境も整備されている。

しかしながら、今後のプロジェクト数の増加にともない、2階のプロジェクトスペースの許容量が不足することへの懸念や、興動館科目のさらなる多様化に対応するためのAV装置設置などが課題となっている。

（3）9-1の改善・向上方策（将来計画）

今後も、第2号基本金組み入れに関する中長期計画を踏まえ、かつ学生の要望を把握し、施設の整備を図っていく。

今後、老朽化した校舎の建て替えや教室の整備、学習支援部署の整備等を検討したい。具体的には、年間1,500クラスを超える授業の実施を円滑に行なうための「中・小規模教室」の増設と、アクティブラーニング、グループワーキングなど、多様化する授業形態に対応するために、教室の可動式机や椅子などの設備の変更が挙げられる。

図書館の図書資料が、紙からDVDやCD-ROM、インターネット上の電子資料と変化しており、図書資料の変質（変化）に対応した設備の更新（変更）が必要となっている。特に語学教材は、カセットテープやビデオテープから、CD-ROMやDVD-ROMへと転換が進み、eラーニングによる学習が行われている現在、図書館の設備はほとんど利用されなくなっている。このため、平成20(2008)年度予算で設備の一新を図る。

情報サービスについては、学生がノート型パソコンを持ち歩く環境に対応するため、校内の各所に順次、無線LANの整備を進めてゆきたい。

平成20(2008)年度4月に、メディア情報センター内の全て（792台）のパソコンは、Windows Vista対応の最新モデルにリニューアルした。今後5年間はこの状態で運用する予定である。これに合わせ、学生用Webメールシステムの導入、パソコン教室の授業支

援システムの導入、学生ポータルの新システム「HUE NAVI」の導入、学生用情報端末（HUE NAVI STATION）の設置などを行った結果、飛躍的に情報環境基盤が向上した。新システムの稼動が始まったばかりなので、随所に改善余地があるものの、当面この環境を維持してゆく予定である。

また、先述した興動館 2 階のプロジェクトスペースの将来懸念される許容量不足については、当面プロジェクト間のブースの共有化などで対応していく。AV 装置設置についても、当面は携帯式のプロジェクターやスクリーンなどで対応していく。

9-2. 施設設備の安全性が確保され、かつ、快適なアメニティとしての教育研究環境が整備されていること。

(1) 事実の説明（現状）

9-2-① 施設設備の安全性が確保されているか。

本学総務部管財課が、学生や教職員、来訪者の施設使用に関する安全性に配慮し、施設設備の日常管理を行っている。

エレベーター、電気設備、消防設備等の設備の保守管理については、法令に基づいて点検を実施し、災害や事故から学生や教職員を守るための安全性を確保している。

バリアフリーについては、車椅子に対応したスロープの設置、自動扉の設置、エレベーターの改修・新設、障害者用トイレの設置など、体の不自由な人にも配慮し、その整備をしている。

学内の照明設備については、その整備の一層の充実を図り、夜間における安全性を確保している。また、常駐警備員が、適宜巡回業務を行い、不審者の侵入など、防犯面での安全性の確保に努めている。

アスベスト対策については、平成 17(2005)年度に、建物の吹き付けアスベスト調査を実施した。その結果、本館の天井でアスベストの使用が判明したため、アスベスト除去工事を行い、現在、安全性を確保している。

平成 18(2006)年度には、建物の耐震診断を実施した。その結果を踏まえ、1・2 号館の耐震補強改修工事を行い、その安全性を確保している。また、第 1 クラブハウスは、平成 20(2008)年度に耐震補強改修工事を予定している。その他の耐震診断建物のうち、本館と研修センターについては、若干の補強が必要と思われるものの早急な対応は必要ではないと診断された。

9-2-② 教育研究目的を達成するための、快適な教育研究環境が整備され、有効に活用されているか。

福利厚生施設である学生会館には、学生食堂、売店、ブックセンター、理美容店、ATM コーナー、学生ラウンジなどがある。あわせて、ビリヤード場、卓球場、将棋コーナーなどを設け、キャンパス内での学生生活にゆとりが生まれるように配慮している。

学内環境美化対策として、建物内および指定場所以外を禁煙とし、指導員が適時巡回を行い、分煙指導を行っている。あわせて、ガイダンスや掲示板を利用し、禁煙の重要性についての啓発活動を行っている。ごみ処理については、学内各所に分別ゴミ箱を設置し、新入生に対するオリエンテーションの時間を使って、ゴミの分別廃棄の指導を行っている。

今年度から、大学、教員、学生とのコミュニケーションツールとして「HUE NAVI」が導入され、授業ごとの課題の伝達、Q&A やクラスフォーラムの公開、アンケートや小テストの実施、学生の出欠席状況の確認などこれまでにないきめ細かい指導やアドバイスが可能となった。学生はこのほか大学からの掲示情報や休補講情報、自分の時間割などを自宅からでも確認できるようになり、情報サービスの向上に大いに寄与している。その他、従来からあった、履修登録、シラバス確認、就職サポートシステム、夢チャレンジシート、図書館システムなども「HUE NAVI」から利用できるようになり利便性が格段に向上した。

(2) 9-2の自己評価

学内の施設・設備等の維持・管理のうち、日常のメンテナンス業務については、総務部管財課により、適切に行われている。さらに、業務委託業者と連携をとりながら、法令に基づき定期点検、保守を行い、適切に安全確認がなされている。特にエレベーターや電気設備の安全性に留意している。

学生食堂、学生ラウンジ、学生自習室、中庭、プロジェクトスペースなどが、学生の集いの場、自習の場、共同活動の場として有効に活用されている。また、クールビズ、ウォームビズ等の省エネ活動の推進、キャンパス内の樹木の管理等、快適なアメニティとしての教育環境の維持保全に努めている。

「HUE NAVI」については、現在、稼働し始めたばかりであり、十分に運用するまでに至っていないが、本学の教育を陰で支える重要なシステムと位置づけ、今後改良を加えながら発展成長させてゆく方針である。

(3) 9-2の改善・向上方策（将来計画）

快適な教育環境を維持・保全するために、現在の教育研究環境の改善や保守管理に努め、教職員、学生が協同して、学内の環境美化活動や省エネ活動を推進していく必要がある。

平成 16(2004)年から随時、学内バリアフリー化の環境を整備してきた。今後は、各号館への連絡通路を整備・配置し、効率的に校舎間を移動可能となり、雨天時にも対応できるよう検討していく。

本年度から、稼働した「HUE NAVI」の運用と、さらなる活用を目指す。今後は、学生カードを IC 化したのを機に、教育の質保証のための一助と位置づけている「授業の出欠席管理システムの導入」を検討する。

[基準 9 の自己評価]

本学の教育研究環境は、適切に整備され、また、維持・管理されている。快適なアメニティとしての教育研究環境が整っている。

今後は、校舎の老朽化による補修、耐震補強対策および付帯設備の更新時期を、計画的に進めていく必要がある。

[基準 9 の改善・向上方策（将来計画）]

快適で安全な教育研究環境を維持するため、管理・整備に万全を期し、建物の各種改修工事、バリアフリー化対策、耐震補強工事および改築工事等を計画的に進めていく。